

活動名	団体名	日本宇宙少年団 周南分団
ものづくり科学教室	地 域	山口県光市
	代 表 者	分団長 志水 慶一
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>毎月1回 年間12回の活動を行いました。毎回3時間、工作、実験、時には見学などが主体の”楽しく作って学ぶ”を基本方針とする体験型活動です。子供達と父兄・スタッフが一緒になっての活動です。参加者は、各自、自分の工具などを持参し、講師の指導に従い工作、実験を行います。毎月、違った新しいテーマですのでスタッフも生き生き、子供達も楽しい工作となりました。工作・実験の前には、安全に関する注意、工作・実験に関する科学的な説明なども行います。創造力、向上心、協調性、思考力などを育成することが出来たものと考えております。</p>		
<p>◆実施時期 毎月1回 原則第3日曜日 13時～16時 定例会場:周南市久米公民館(左記以外…中国電力柳井発電所、徳山高専)</p>		
<p>◆参加人数 総数約600名 (子供約25名 父兄15名 スタッフ約10名 合計50名 50名× 12回 = 総数 約600名)</p>		参加総人員 600名



科学で遊ぼう(カルメ焼き)



色んなシャボン玉をつくろう
(シャボン玉でお手玉)



電気について学ぼう
(中国電力柳井発電所見学)



気体の不思議と熱気球の製作

◆実施に伴う効果

- ・周南地域の他の団体との連携が進んだ。他の団体として、中国電力、徳山高専、おもちゃ病院など
- ・ラジオ、タウン誌、雑誌、新聞などの紹介の機会が得られた。
ラジオ：しゅうなんFM、タウン誌：たうんぽっぽ 子供向け雑誌：子供の科学
新聞：日刊新周南

◆苦労した点

一年目(2009年)は、いわゆる若葉マークで、全て未経験であり、予算、外部PR、参加者募集、活動の方法など、いずれも手探りで進めました。スタッフ(仲間)が沢山いたこと、また皆さんが熱心であったことが活動推進の原動力になりました。

加えて、科学技術振興機構から助成が得られたこと、外部団体の協力が得られたことが、我々の活動を大きく後押ししてくれたものと感謝いたしております。

活動PRと協力要請、参加者募集のため、小学校の校長へのお願い、企業・高専への活動紹介、ホームページ作成、イベントへの協賛など多く行いました。また、当方の活動を社会教育活動として認知してもらうため、周南市、光市などの行政の関連部門への働きかけも行いました。

二年目(2010年)は、一年目に苦労した点の多くに関しては、様子も分かり大きな苦労はありませんでした。ただ、毎回新しいテーマで活動をすることを方針としている為、二年目は、1年目以上にテーマづくりには苦労しました。新年度の半年以上前から準備し、やっと1年分のテーマを設定することが出来ました。来年度も、生き生き活動するためには、新しいテーマを前提にしたいとおもいますが、さらに苦労しそうです。

◆今後の課題・発展の方向性

活動内容をさらに充実させ1年でも長く継続させたいと思っています。そのためには、ボランティアリーダーが重要です。現在、12名のボランティアリーダーに参画頂いていますが、60代半ば以上の方が多く、数年先の活動は厳しいものがあります。一人でも多くのボランティアリーダーの参画が待ち望まれます。

1年でも長く継続することが必要条件ですが、
①子供達に年間目標をもたせての活動
②人数が増えてきていますので、低学年対象、高学年対象の教室
③単発にはなりますが色々な学校(養護学校など)、地域への出前教室
なども、現教室の実績を積み上げながら考えて行きたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

楽しく、自分自身も勉強出来た一年でした。また色んに人に助けられ、交流できたのも良かったと思います。

何人かは卒業して行き寂しい思いがしますが、新しい人の参加申し込みが沢山あり、さあまた一年頑張ろうと言う気持ちになっています。